

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 8 号を発表したので送付します。

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 8 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (イネヨトウ及びカンシャシンクイハマキ)
- 3 発生地域 西表島、小浜島
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 令和 7 年 3 月上旬、西表島において新植夏植えほ場 10 地点で芯枯茎調査を実施した結果 (図 1 左)、芯枯茎率は 17.5%であった。この値は、国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「多」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100%であった。芯枯茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は全てイネヨトウであった。
 - (2) 令和 7 年 3 月上旬、小浜島において新植夏植えほ場 10 地点で芯枯茎調査を実施した結果 (図 1 右)、芯枯茎率は 27.3%であった。この値は、国が定める発生予察調査実施基準における発生程度別基準では「甚」に該当する値であった。また、発生ほ場率は 100%であった。芯枯茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫は全てイネヨトウであった。
- 5 発生生態および被害
 - (1) メイチュウ類共通
 - a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
 - b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ (図 2) を起こす。
 - (2) カンシャシンクイハマキ (図 3)
 - a 沖縄では年 6～7 世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉や茎に 1～数卵ずつ産み付けられ、1 雌当たりの生涯産卵数は 200～500 卵に達する。
 - c 被害はほ場内に散在的に発生する。
 - (3) イネヨトウ (図 4)
 - a 沖縄では年 5～7 世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1 雌当たりの生涯産卵数は 400～700 卵に達する。
 - c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
- 6 防除上注意すべき事項
 - (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
 - (2) 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤 (粒剤) を施用する。
 - (3) 茎葉への水和剤等の散布は、葉鞘内に薬液が十分に行き届くように丁寧に散布する。MEP 単独成分

の剤は感受性低下の報告があるため、他の剤を中心に散布する。

(4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。

(5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。



図1 被害ほ場の様子（左：西表島 右：小浜島）



図2 芯枯れ茎



図3 カンシャシンクイハマキ幼虫



図4 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

